

職員のみなさんへ一言メッセージ(第68回)

朝晩の冷え込みが厳しくなって参りました。バタバタしているうちにすぐ、12月になってしまいます。今年の仕事納め式で良い年であったと振り返ることができるよう、残された1ヶ月間を頑張りたいものです。

さて、9月のメッセージに、人に認められたい、出世をしたいという気持ちは誰にでもあり、その秘訣を3つ書かせていただきました。多分覚えておられない方が多いと思いますので、第一の秘訣をもう一度述べさせていただきます。サラリーマンとして、自営業でも同じだと思いますが、仕事をして行く上で、人に認められるには、「上司には使われやすく、同僚からは頼まれやすい」ということが一番大事であるということを経験から学びました。

この「使われやすい人、頼まれやすい人」ということを、少し広げると「人に好かれる人」と考えることが出来ると思います。

ここで、私どもが日頃接している入所者のみなさんのことで考えてみたいと思います。言うまでもありませんが、入所者の中にも「人から好かれる人、人から嫌われる人」様々であります。

職員のみなさんは仕事ですから、どの方にも親切な対応をしていただいています。しかしながら、職員も人の子であり感情があります。職員や施設の悪口ばかり言っている入所者より、施設を愛し、職員(自分)を好きになっていただいた入所者の方を好きになるのは、避けられないことだと思います。もしも、自分を信頼し、好きになっていただいた方の身体が弱り、認知症が進み、食事・排泄・入浴等に手が掛かるようになれば、きっと、真和館の職員は、愛情深く、温かくお世話することでしょう。そうなれば、高い介護料を支払い文句ばかり言っている有料老人ホームに入居の人より、救護施設に居る人の方が幸とも言えます。

こう考えると「人から好かれる人」になるということは、ある意味「人や仕事や勤務先を好きになる」ことなのかもしれません。こんな所に、人生を楽しく、幸福に生きて行く秘訣があるのかもしれません。

人から好かれ、人を好きになって成功した典型例は、豊臣秀吉だと思います。あの癪癪持ちの信長に仕え、失敗も多かったのに信長から愛され、出世をして行きました。卑賤の出身でしたから、様々な苦勞あったにも関わらず天下を取れたのは、人から好かれたからだと思います。

いくら能力があっても、いくら努力をしても人から嫌われたのでは、良い結果がでるはずがありません。もっと悪いのは、うまく行かないことを上司や同僚のせいにする人がいますが、とんでもない見間違いです。

人から好かれるのも嫌われるのも、身に起こる良いことも悪いことも、全て自分の心の持ち方・対処の仕方に起因しているのです。職場で人から好かれる人とは、困難な仕事にも嫌な仕事にも逃げずに立ち向かい、周りの人を楽にして行く人ではないでしょうか。

平成23年11月25日 真和館施設長 藤本和彦